

## 村上地域の道路整備について

### 【片野猛】

日本海沿岸東北自動車道の供用見込みについては、荒川までが平成21年の国体までとされており、更に、朝日までも新直轄により急ピッチで整備が進められている。については、日本海沿岸東北自動車道インターチェンジへのアクセス道路である県道岩船港線等については、多額の事業費と長期間の工期が必要と聞いているが、供用開始に向けて県としての今後の整備方針を伺う。

### 【泉田知事】

日本海沿岸東北自動車道インターチェンジへのアクセス道路についてであります。が、県道岩船港線の村上インターアクセス道路は、大規模土工を伴うことから多額の事業費が必要となるため、国土交通省と調整を図りながら一体的に整備をすることとしております。

荒川インター供用後の早い時期に想定される日沿道開通に合わせ、今後も国と連携し、重点的に整備を進めてまいりたいと考えております。

### 【片野猛】

「日本海パークライン」の入口にあたる箇所には瀬波温泉トンネルがあり、県はこのトンネルの先の道路を平成5年から建設に着手し、延長1.6キロメートルのうち0.4キロメートルを完成させたものの、その後10年以上経過したが、残りの1.2キロメートルは着工にも至っていない。

この道路の接続により、「日本海パークライン」の魅力が発揮されるとともに、企業誘致や住宅開発など沿線開発も期待されている。

今後のこの瀬波温泉トンネルの先の線、いわゆる都市計画道路環状3号線の道路整備についての考えを伺う。

### 【泉田知事】

次に、都市計画道路環状3号線の道路整備についてであります。

本路線は、村上市の円滑な交通の確保を図るという点から早期整備に寄せる地元の期待は大きく、道路ネットワーク形成にとって重要であると認識しております。瀬波温泉トンネルから県道瀬波温泉線までの未整備区間約1.2キロメートルについては、事業主体及び事業手法が未定であり、周辺道路の混雑状況等を見ながら、村上市と今後調整してまいりたいと考えております。

平成19年3月号

## 片野たけし 県政報告たより

No.6

〒958-0821

村上市塩町11-12

電話 0254-53-4710

FAX 0254-53-1432

発行：片野たけし事務所

## 平成19年2月県議会で一般質問

### ☆越後杉で家づくり総合対策事業について

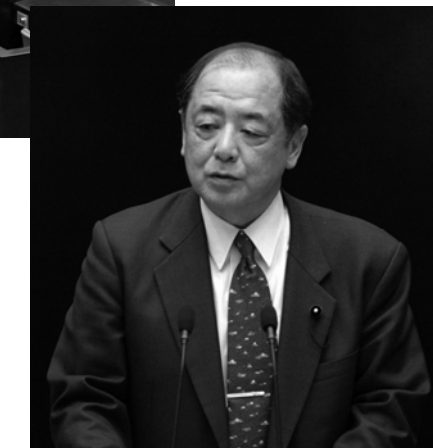
制度創設について知事の所見を伺う

### ☆岩船港について

今後の課題、方向性について所見を伺う。

### ☆村上地域の道路整備について

都市計画道路環状3号線の道路整備



平成19年2月議会で一般質問を行う!!

県議片野たけしホームページ <http://www.i-murakami.com/~takesi>

片野たけし後援会ホームページ <http://www.i-murakami.com>

## 越後杉で家づくり総合対策事業について

### 【片野猛】

平成15年9月定例会において、住宅建設による新潟県の景気浮揚と県産材の利用促進の両面の効果が期待される施策として、「県産材を一定割合使用する住宅建設に対する直接補助制度」を提案したことがあるが、当時、税金を私有財産に直接補助することに県は消極的であった。しかし、中越大震災復興基金による復興住宅に100万円補助する制度として創設した「越後杉で家づくり対策」は、多くの利用があり、その効果は実証されたと考える。県は、新年度から震災復興という枠を超えて県全域で実施されるとのことであるが、住宅への直接補助の考え方を含めこの制度創設について知事の所見を伺う。



### 【泉田知事】

この事業は、住宅を建設する個人に対する経済的な支援を目的とするものではなく、木材需要の太宗を占める住宅分野での県産材の利用拡大によって、森林・木材産業など地場産業の自立回転を促すとともに、森林の循環利用を通じて、

- ・県土の保全や水源のかん養
- ・循環型社会の構築
- ・地球温暖化の防止

など様々な公益性の発揮に大きく貢献することを真の目的としております。

平成17年度からの震災復興基金事業で、その効果が実証されたことから、今回、県事業として全県に拡大しようとするものです。



### 【片野猛】

新年度から新たに展開する「越後杉で家づくり総合対策事業」は、県産材の利用促進を図るとともに、県内資源を活用した住宅建築による総需要を拡大する側面があると考えます。新設住宅着工戸数は経済指標であり、「県産材を奨励する・林業関係者を支援する」という考え方だけではなく、「景気対策ひいては新たな公共事業である」という考え方に立って、推進していく考えはないか知事の所見を伺う。

### 【泉田知事】

この事業により、新設住宅着工戸数の拡大につながるかどうかを含め、森林・木材産業への波及効果等を見極めながら検討してまいりたいと考えております。

## 岩船港について

### 【片野猛】

岩船港は本県で唯一「特定地域振興重要港湾」に指定され、商港・漁港の両面の機能を持ち、粟島の生活、観光の拠点であるほか、県北部の物流拠点となっている。県では、「岩船港港湾振興ビジョン」を策定し、野外ステージやイベント広場など観光振興に寄与する施設の整備を進めている。本年、岩船港漁協でも直売所や観光物産店の設置計画があるほかアクセス道路の改良も進んでいる中で、この「岩船港港湾振興ビジョン」についての今後の課題、方向性について所見を伺う。

### 【泉田知事】

このビジョンは、岩船港を活かした地域振興及び活性化に向けた「にぎわい空間」などの創出を図る方策について、地元の意見を取り入れ策定したものであります。

県では、これまで港湾緑地や瀬波温泉海岸の海浜広場などの整備を進めてきた結果、地元住民や観光客から広く利用されております。

今後は、事業効果を踏まえつつ、村上市と連携して必要な支援に努めてまいりたいと考えております。

### 【片野猛】

岩船港の防砂堤周辺は砂の堆積が進んでいるが、周辺の海岸では以前に比べ海岸侵食が激しくなっているところがある。これら両者の間には因果関係があるのか、現状をどのように分析し、対策をどのように考えているのか伺う。

また、日本海東北自動車道の建設工事に岩船港の砂が埋め立て用に利用されているが、堆積した砂の利用計画について伺う。

### 【泉田知事】

岩船港では、従来から港内への漂砂の流入が著しいため防砂堤の整備をしてきたところですが、近年、防砂堤周辺に堆積する漂砂が増大しており、航路の安全確保にも支障をきたす恐れが生じております。

これまでも深淺測量等でその状況を把握してまいりましたが、平成19年度において、漂砂の発生状況について調査をすることとしており、その結果を踏まえ対策を検討してまいりたいと考えております。

堆積した砂の利用計画についてであります。岩船港では、泊地の整備や航路維持のための浚渫により、毎年約10万m<sup>3</sup>前後の土砂が発生しており、これまではその大部分を日本海沿岸東北自動車道における盛り土材として有効活用してまいりました。

日本海沿岸東北自動車道の工事期間中は、全量を盛り土材として引き続き有効活用を図ることとしておりますが、工事完了後における活用策については、今後検討してまいりたいと考えております。